

公募研究 A02 (課題番号: 08205205)

## 近世長崎貿易に関する三井家文書の情報化

研究代表者: 賀川隆行・財団法人三井文庫・研究員

1. 研究項目: A02 環東シナ海地域間交流史

2. 研究課題名: 近世長崎貿易に関する三井家文書の情報化 (課題番号: 08205205)

3. 研究期間: 平成8年度 (1996)

4. 交付研究費: 平成8年度 1,400千円

5. 研究組織(氏名: 所属機関・部局・職)

(研究代表者) 賀川 隆行: 財団法人三井文庫・研究室・研究員

(研究分担者) 吉川 容 : 財団法人三井文庫・研究室・研究員

6. 研究目的

近世後期の長崎での会所による貿易は管理貿易であったが、長崎会所での輸入品の入札に携わった商人は投機的な性格が濃厚であったために、価格の変動によって経営は容易に倒壊しやすく、商人の側の史料はあまり残されていない。その中で本商人として輸入物資の入札に加わった三井家の経営史料はきわめて貴重なものであるといわなければならない。この三井家の長崎貿易関係史料は財団法人三井文庫に所蔵されていて、7万点にのぼる膨大な三井家文書の中に埋没しており、しかも、それは三井家文書の目録が受け入れ順に配列されていて、分類がなされていないために、それらを抽出、検索することは容易なことではなく、外部の研究者にとっても検索は困難なことである。本研究は三井家文書に精通している研究代表者らが関係史料を抽出してこれをデ・タベ・ス化し、キーワード検索が容易に行えるようにすることを目的とする。その際に個別の史料のもつ位置付けを確定するために、すでに各地において公開されている関係史料を収集し、史料学的に比較検討することが不可欠となる。これによって外部研究者にとっても三井家文書の調査研究が容易となり、従来はほとんど調査利用されることがなかった史料群がくわしく分析されることによって近世長崎貿易史はもとより環東シナ海地域間交流史研究にとっても新たな研究成果をもたらさうものと期待される。

7. 研究成果の概要

『三井家記録文書目録』に記載されている7万点の三井家文書のなかから長崎貿易、朝鮮、対馬、

琉球、鹿児島に関する史料名を抽出し、その目録表題をコンピュータに入力した。そこには表題とともに、年代、作成者名、原所蔵者名、登録番号も入力されている。そのデータベースを内容により分類をした。そして、『財団法人三井文庫所蔵長崎貿易関係史料目録』として刊行した。それは61ページにおよび、1774点を含んでいる。その目次から大項目を拾うと、越後屋長崎方、青貝屋、紀州藩産物御用、深江屋、大坂銅座、対琉球・鹿児島藩、朝鮮人・琉球人来朝国役銀となる。つぎに三井文庫所蔵文書の比較検討のために、九州大学九州文化史研究施設の石本家文書、大阪市少彦名神社所蔵の道修町文書、慶応義塾大学古文書室所蔵の永見家文書等の一部をマイクロフィルムに撮影して収集した。なお別項「37.03 財団法人三井文庫所蔵長崎貿易関係史料目録の作成」の項を参照のこと。